

令和元年度授業改善推進プラン

清瀬市立清瀬中学校 第2学年

	学力調査から見えた課題 (調査のない教科は授業における課題)	授業改善のための具体策	
国語	都の学力調査の結果より、「話す・聞く」と「読む」の領域においては概ね良かったものの、「書く」と「言語事項」の領域において課題が見られた。	・授業内で短い文章を書く機会を定期的に設け、また書いたものを相互に評価する時間も作る。 ・言語事項に関する問題を解く時間を授業内で増やす。	
数学	すべての観点で都の平均を上回る結果だった。その中で一番高いのは「技能」であった。一番低いのは「見方・考え方」の観点であり、そのことから応用力に欠けることがわかる。	応用力をつけるには基礎、基本がしっかりしていないといけないので、まずはこのまま基礎、基本を定着させるために行っている週1回の宿題プリント、小テストを引き続き行う。その上で、応用問題を扱う時間を授業内で増やし、応用力をつけていく。	
社会	都の学力調査の結果より、「知識・理解」の領域は都平均より下回った。基本的な知識の習得が不十分であると読み取れる。 また、生徒意識調査(社会)を見ると、「学び合ったりする授業」という意識は低かった。教師が一方的に教授するのではなく、生徒同士で学び合う活動が必要である。	・毎回の授業の始めに、前回の授業内容の小テスト問題集を解くことは継続し、単元のまとめを充実させることで定期的に復習をし、知識の定着を図る。 ・授業内で生徒同士の話し合いを取り入れ、お互いの意見を共有や比較、評価しあう活動を計画していく。	
理科	技能に関しては他の領域に比べて平均よりも高い結果が出てきている。しかしその他の領域は平均よりも低い。3年間で関連した内容を繰り返し復習できるよう心がけているが、現状では知識の定着と思考判断が今一步のようである。	現状でも実験の結果の予想、グループでの教えあい、話し合い、小テストなどで思考や知識について定着を図っているが、今まで以上に小さい段階で取り組めるようにしたい。また、家庭学習が足りないので家庭学習を増やせるように声がけをしたい。	
音楽	・前向きに取り組もうとする生徒が多い。合唱への意欲も高い生徒が多い。器楽は個人差が大きい。 ・1年次で知識・技能未修得の生徒へのフォローの工夫が必要である。	①授業開始時に、本時の内容、目標を板書きし、全体で確認してから始める。 ②スモールステップ ③グループワーク、パート練習など相互協力を取り入れる。 ④パートリーダーを中心とした練習。 ⑤様々な楽器を体験させる。	
美術	・授業に集中し取り組み、各活動に真剣に取り組む様子がみられる。 ・与えられた課題に対し、最善を尽くし努力する生徒が多くみられる。 ・苦手意識を持つ生徒の中には、あまり深く考えずに発想したもので活動を済ませてしまう生徒もみられる。	他者との関わりから学ぶことができる機会を増やす(グループワーク、鑑賞会等)。また、発想力を鍛えるために日頃から感じたり考えたりする取り組みをこまめに取り入れる。苦手意識がみられる生徒へ声かけを行い、感じたことや考えたことを対話しながら引き出していく。	
保健体育	<男子・女子>授業規律に問題はなく、前向きに取り組もうとする生徒がほとんどである。仲間を気遣うことができる生徒が多い。	<男子・女子>学習カードを活用し、個々のねらいを明確にして取り組ませる。スモールステップで行い、T.Tを有効活用し、技能を習得させていく。	
技術・家庭	試行錯誤しながら工夫しようとする創意ある生徒が多く、自主的に学習を進めたり、よく質問へ来る生徒が多い。一方で、授業に対して意欲が低く、ネガティブな反応を示す生徒も多い。道具の扱いは非常に器用で、新しい実習作業にもすぐに適応できる。また、困っている生徒がいたらすぐに助けてあげるなど、思いやりの心に溢れた学年である。知識や理論の定着率はあまり高くなく、日常生活への興味関心も低いようにみえる。	学習内容は日常生活と密接につながっている事を積極的に伝えてゆく。生徒が理解しやすいような事例を多く示し、具体的な画像等を示す事で学習意欲を高める。また、助けあう事が非常に得意な事を生かし、アクティブ・ラーニングの視点を積極的に取り入れた授業の実践を行う事で、生徒たちのチームで働く力をより高め、日常にある課題に対して考え抜く力を育成してゆく。	
外国語(英語)	英語への意欲関心の度合いに開きがあり、それが習熟度の差異に準じている。 授業には概ね真面目に取り組んでいる。 「書く」「話す」という表現する力に課題が見られる。1年生の既習事項のポイントを押さえて文章を構成する力をつける必要がある。	・文法を、基礎的事項に重点を置きながら指導する。文構造については、ドリル学習時に強調して指導したり、文法を踏まえた表現活動に力を入れることで、定着を図っていく。 ・語彙力のアップを図ったり、音読を繰り返させたり、暗唱させたりして表現のインプットを図る。また、多くの英文に触れさせたり、精読も行っていく。	
総合	一年時からの積み重ねを生かし、調べ学習や体験活動に対し積極的、意欲的に取り組んでいる生徒が多い。活動の手順に対しリーダーが見通しをもち準備しクラスメイト等を引き張る様子もみられる。一方でグループ学習の際に他者に頼りがちな取り組み方をする生徒もみられる。	一人一人の役割を明確にした取り組みを行う。また自己のキャリア形成について考えさせ、自分がやりたいこと、興味があること等に気付きながら主体的に選択し活動する意識をもたせる。	
道徳	授業へ真面目に取り組む、課題に真摯に向き合っている様子が見られる。話し合い活動では、意欲的に発言する生徒と、なかなか自分の言葉で考えを表現できない生徒に分かれる。ただし、発言は苦手だが、ワークシートへはよく記述できる生徒もいる。「議論する」ことに、課題が見られる。	他人事ではなく、自分のこととして教材を捉えて考えさせていけるような授業づくりを目指す。教材の選択、道徳的価値観へ迫る行程、方法(グループワーク、ロールプレイングなど)を工夫する。	